認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
Tel：03-5206-5260　Fax：03-5206-5261
Email：yunnan@jyfa.org　URL：http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-63311468　Fax.+86-871-63320658
http://www.facebook.com/NPO.JYFA　@jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人　初鹿野 惠蘭
印刷協力　昭和情報プロセス㈱　㈱技術評論社／デザイン Hope Company

Japan Yunnan Friendship Association
彩雲の南
会報
第62号
発行日　2017年（平成29年）8月15日

25の小さな夢基金
感謝と希望を胸にそれぞれの道へ
第9期生 97名 愛と感動の旅立ち

▲卒業証書をもらい卒業したことを実感

▼在校生の授業をのぞいてみましたみんな真剣です

昆明市女子中学春蕾班の生徒を1対1で3年間支援する「25の小さな夢基金」が始まって10年目を迎えました。2006年に初めて同校を訪問、2008年に10名を支援したのが始まりでした。彼女たちの卒業式に参列する「ふれあいの旅」に、今年は協会会員や理事、顧問など14名が日本から参加し、第9期生97名の旅立ちを見届けました。

卒業式の翌日から、近藤釼一名古屋支部長のご支援で2003年11月に開校した第4校「日中藤誼僑愛小学校」(怒江リス族自治州福貢県)と、日本貨物鉄道労働組合(JR貨物労組)のご支援で2005年8月に開校した第6校「日中秋那桶僑心小学校」(同州秋那桶村)を再訪問しました。「日中藤誼僑愛小学校」では、校長先生や地元政府の関係者と14年ぶりの再会を果たし、温かい歓迎を受けました。「日中秋那桶僑心小学校」には開校時に設置した記念碑が今も残っており、毎年400名近い子どもたちが学んでいるそうです。校長先生は繰り返し「日本の支援者の皆さんに感謝しています」と強調されていました。

“雲南最後の秘境”と呼ばれる秋那桶村を訪れたのには、小学校訪問の他にもう一つ目的がありました。それは「25の小さな夢基金」第4期生・劉慧娟さん(ヌー族)に会いに行くことです。彼女は日中秋那桶僑心小学校の開校式に出席しており、その後、昆明市女子中学に入学した彼女を協会が支援することになるのです。とても不思議な縁を感じます。劉さんの実家では彼女のご両親、弟、そして1歳半になる娘のソフィアちゃんが迎えてくれて、山の幸をふんだんに使った民族料理でもてなしてくれました。

同基金のサポーターで元昆明支部長でもある平田栄一さんのご協力で、「ふれあいの旅」の新しい取り組みとして、卒業式前日にリス族についての勉強会も開かれました。

▲支援4校目,日中藤誼僑愛小学校を訪問。スポーツ用品の寄付を行ないました。

2005年に建設された「50の小学校プロジェクト」支援6校目日中秋那桶僑心小学校の記念碑。12年間大事に守られ現在も当時のまま保存されていました。小澤文穂顧問（左）と初鹿野理事長（右）

8日間の「ふれあいの旅」を通じ、人の温かさとともに、教育支援を通じて生まれた強い絆を実感しました。「少数民族の子どもたちが、安心して平等により良い教育を受けられるように」という理念の下、17年間地道に活動してきて本当によかったと思いました。

3年間、春蕾生を支えてくださったサポーターの皆様、「ふれあいの旅」で出会った全ての皆様に心より感謝いたします。

日本雲南聯誼協会理事長　初鹿野惠蘭

25の小さな夢基金
春城に学ぶ若者達
協会会員・「25の小さな夢基金」サポーター　浜津 義男

遥かなる昆明
6年ぶりに昆明市女子中学を訪れました。ここに学ぶ女子高校生たちは、はるか親元を離れ、元気いっぱい大きな夢を抱き大学を目指し頑張っています。実家に帰るには8～9時間のバスの旅。15、6の少女たちには寂しいとき、辛いときもあるでしょう。

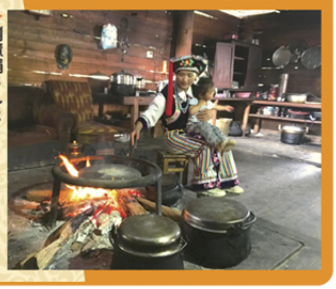
若者達の夢と苦悩
最初に支援したL.Mさんは病気の為、1年休学。その知らせを受けた時はびっくり仰天。「最後まで支援します、卒業式には必ず行きます!」と励ましの言葉を協会に託しました。2017年7月1日、卒業式参加の為、初めて昆明を訪問。元気いっぱいの卒業生たち。その中にL.Mさんが居ました。小柄で寡黙な少女は、「大学で学び故郷で学校の先生になりたい」と未来の夢を控えめに語り、記念撮影時、そっと私と腕を組んでくれました。私も涙をこらえ笑顔でお別れしました。その後L.Mさん、無事大学に合格、「経済学を学びます」との連絡がありました。未来への前進を確信しました。

浜津さんと支援生徒

再び昆明へ
定年後、なかなか仕事と縁が切れず、気が付けば70歳。一念発起、昆明を訪問し卒業式に参加しました。卒業生達は今年も元気いっぱい!支援生C.Sさんも「将来、国語の先生!または看護師!」と大学卒業後の夢を話してくれました。

怒江へ
卒業式参加の後、三江併流の地、怒江リス族自治州丙中洛郷を目指しました。卒業生の故郷、秋那桶をL.H　さんの案内で訪問その雄大な自然に圧倒されつつも60数年前、祖母の家を訪れた時のことを唯々懐かしく思い出しました（勿論、当時の祖母の家には、水道、水洗トイレ等便利なものは有りませんでしたが）。この地から省都昆明までバスで3日かかるとか。この先はチベット「茶馬古道」の地、土砂崩れ等をかわしながらの道のり、老体には、かなり堪えるものでは有りましたが、「来て良かった」と思い、後ろ髪引かれる思いで、かの地を後にしました。卒業生の未来に幸多かれと願いながら。

素朴で懐かしい感じがする劉慧娟さんの実家



▶劉慧娟さんと愛娘ソフィアちゃん

25の小さな夢基金

皆さまのご協力に心より感謝申し上げます

ご協力（順不同・敬称略）　雲南省僑務弁公室、雲南省統戦部、怒江リス族自治州統戦部、怒江貢山県統戦部、怒江福貢県統戦部、昆明市政協、昆明市西山区蒲公英社会総合服務中心、昆明市女子中学、昆明飯店、雲南大学外国語学院、雲南財経大学、雲南大学滇池学院、昆明理工大学、雲南民族文化研究会、雲南人家文化産業集団、天卓教育、劉慧娟さんご家族、秋那桶村の皆さん、丁美蘭、徐芸、宋東昇、陳麒後、龔艶玲、楊娟（春蕾生）、朱堯（大学生）、田伊人（大学生）、川嶋圭（大学生）、蘇玉珠（大学生）、謝丹（大学生）、任佳珠（大学生）、張晨（大学生）、李庭宇（大学生）

支援の輪を広げよう「25の小さな夢基金」サポーター募集中
お志ある方のご支援をよろしくお願い致します

お問い合わせ・お申し込み ➡
東京本部事務局
（月～金、10～18時）
TEL 03(5206)5260
yunnan@jyfa.org

25の小さな夢基金　「卒業式ふれあいの旅」へ参加して

協会会員・「25の小さな夢基金」サポーター M.H

「卒業式ふれあいの旅」に初参加しました。雲南へは14年前に昆明、麗江、シャングリラ方面へ行き、今回で2回目の訪問となります。

前半の昆明滞在中は、「春蕾クラス」の卒業式に参列しました。式ではなんと卒業生より前の列に座るなど日本では考えられない厚遇ぶり？でした。支援した生徒と楽しく話ができて大変嬉しい時間でした。

そして後半は「雲南最後の秘境」怒江大峡谷へ。昆明を早朝6時半に出発し、飛行機と15人乗りのマイクロバスを乗り継ぎます。私は足が短くて助かりましたが、皆さんは前席に足がつかえて窮屈そう。春雷卒業生の劉慧娟さんらも合流し、座席は満杯です。また、連日の雨のため、道路に土砂が流出しているほか、あちこちに穴もあいて車は大揺れでした。この辺りは三江併流と言われ、東から金沙江（長江）・瀾滄江（メコン川）・怒江（サルウィン川）が3000m級の山に挟まれ南北に並行して流れています。

いよいよ目的地の丙中洛郷秋那桶へ。ここからは4時間も走ればチベット自治区との境です。地名は怒江リス族自治州ですが、ヌー族の村で山を切り拓いたわずかな畑と豚や鶏を飼って暮らしています。ほぼ自給自足で、現金収入は山菜とキノコの販売などということで、私の子供の頃の懐かしいにおいがしました。

協会が支援した小学校も2校視察しました。1校は統合で休校していますが、来年から幼稚園と1年生用に使われる予定だそうです。

復路は宿を出発して1時間の所で、沢から流出した大量の土砂が道を埋めていて立ち往生しました。大型のブルドーザーが来て1時間半で通れるようになり一同安堵、遅れはしたものの何とか帰ってきました。

協会に入ったおかげで、めったに行けない所へ行くチャンスを得ることができました。毎夜毎夜、反省会（飲み会）をして楽しい時を過ごせたことを同行した皆さんに感謝。　謝謝！！

保山へ戻る途中、土砂崩れに遭遇

修士論文のために「ふれあいの旅」に参加して

25の小さな夢基金

北海道大学環境科学院　実践環境科学コース　修士1年　王寧

羽田から飛行機で上海を経由し、遅延もあり約13時間かけて、3年ぶりに雲南の地へやっと着きました。雲南での7日間、特に怒江大峡谷、素朴で心暖まる人々の出会いは私の記憶に強く、深く、刻まれるものになりました。私がこの旅に参加したのは、自分の研究課題である「25の小さな夢基金」のことを自分の目で見て、聞いて、感じて、考えを深めたいと考えたからです。卒業式に参列して、皆さんと交流でき、そして、元春蕾生たちに会うこともできました。「子どもの頃、お金をもらうために薬草採りに1週間、山に入って、大変でした。」「村で最初の大学生になったことで周りの人は教育の大切さに気づき、村には大学生が増えてきて、とても嬉しいです。」「支援していただいた3年間、支援者に会えなくてとても残念です。もし機会があれば、ぜひ日本で支援者にお会いしたいです」など貴重な話を聞かせてくれました。

今回の旅で、でこぼこで険しい山道、大峡谷が入り組んで流れが急な川、土砂降りにも遭遇して、大変でしたが、色々な収穫がありました。この旅に尽力してくださった協会の皆さん、「25の小さな夢基金」の支援者、他の参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

王寧さん（左）と劉慧娟さん（右）怒江をバックに

25の小さな夢基金　第5回　日雲高校生国際交流プログラム

会場◉上海日本人学校高等部　主催◉認定NPO法人日本雲南聯誼協会
協賛◉メディネットインターナショナル株式会社、上海森茂診療所、上海日本人学校、昆明市女子中学
ご協力◉在上海日本国総領事館、平田栄一、平本英愛

春蕾生が日本文化を初体験若きかけ橋たちの国際交流

酷暑が続く7月19日、昆明市女子中学の春蕾生8名が教師2名に引率され、上海日本人学校高等部を訪問。今年で5回目を迎えた日雲高校生国際交流プログラムに参加しました。前日には協会法人会員のメディネットインターナショナル三木秀隆社長と王事務長の案内で日系医療施設の森茂診療所を訪問。先端医療設備の一端と予防医学の重要性、中国の病院との違いなどについて見聞を広めました。

午前9時少し前、同校全生徒約120名が参加して開会式が始まり、宮川隆史校長は春蕾生の訪問を歓迎し、この交流が長く続くことを祈念すると挨拶しました。来賓の在上海日本国総領事館の高岡智子領事からは、総領事館もこの民間ベースの交流事業を高く評価し、さらなる発展を応援したいとお言葉をいただきました。

式典終了後、高等部生徒による柔道、剣道、空手の模範演技と合唱が披露され、春蕾生は日本の武術、なかでも剣道の迫力に目を丸くしていました。春蕾生は学校で日頃行っている体操と少数民族の歌と踊りを披露。高等部生徒は色鮮やかな民族衣装と優雅な踊りにため息をついていました。

午前10時、最初の交流プログラム「日本文化体験」開始。高等部生徒が各教室に日本のアニメ、浴衣の試着、日本の遊び、折り紙などを準備し、春蕾生は二人一組で順に教室を巡りそれぞれを体験。どの教室でも中国語が堪能な高等部生徒は中国語で、中国語が苦手な生徒は英語で、どちらも苦手な生徒は英語と中国語のチャンポンで、春蕾生も高等部生徒に劣らず中国と英語を駆使して、学校や出身地、好きな食べ物、好きなスポーツなどを質問し合い、積極的に相互理解を深めていました。

昼食は、春蕾生も高等部生徒の輪に加わり、日本式のお弁当を食べながら自由交流。携帯電話のアドレス交換もしたようです。午後は高等部2年生の数学の授業に参加し、日本の学校を体験。わずか1日の短い時間でしたが、随所で活発且つ和やかな交流が行われ、春蕾生の一人は「日本人高校生の礼儀正しさと優しさがいちばん印象に残った」と言っていました。

今回の訪問の中で、日本人学校高等部から念願の昆明訪問について、具体的な希望日程が示され、協会ではこれを基に今後両校と協議を重ね、昆明市女子中学とともに歓迎準備を進めることになりました。

会員・元雲南支部特命支部長
平田栄一

初めてみる空手の迫力にびっくり

▲上海森茂診療所にて日本の医療を初体験

日本語の数学の授業を初体験

7月19日、私たちは上海日本人学校高等部を訪ねました。学校に着くと副校長先生が出迎えてくださり、皆さんとても礼儀正しいなあというのが第一印象でした。交流会の演技は緊張でうまくできませんでしたが、ほめたり励ましたりするように、終わるたびに大きな拍手が聞こえました。特に民族舞踊の時は手拍子を打ってくれて、その軽快な手拍子を聞くうちに緊張も消えて楽しく踊れました。高等部の生徒さんと一緒にゲームなどをやって、日本文化を少し理解しただけでなく、友達もできました。午後、皆さんと一緒に昼食を食べ、数学の授業を受けて、後ろ髪を引かれる思いで学校を離れました。今回、このような貴重な体験をさせていただき、上海に行くことができとてもよかったです。

昆明市女子中学春蕾班1年　**字麗琴**（イ族）

連載

こんにちはCSR

ー協会を支えてくださる協力企業からのメッセージー

第18回◉C&J 株式会社

C&J 株式会社は、閑静な雰囲気の中にも活気漂う南青山の路地に面したマンションの 3 階にありました。地図を頼りに路地を曲がったところで道を失い、確認の電話を入れること数十秒、突然、「ここですよ～」と頭の上から声が。指示に従って3階へ上ると仲間社長が気さくな笑顔で迎えてくれました。

会社概要■
設立：2015年4月27日
主な事業：食品添加物輸入・卸売業（一般社団法人日本食品添加物協会　正会員）・輸出貿易業
本社所在地
〒107-0052 東京都港区赤坂七丁目5番40号3-A号室
TEL.03-6426-5880　FAX.03-6426-5809
HP：http://www.cj-corporation.com

仲間社長は中国東北地方、黒竜江省のご出身で、2004年に“可能性”を求めて日本にやってきました。いろいろな仕事を経験した後、2015年、主に加工食品に用いられる食品添加物を中国から輸入するC&J株式会社を創業。それまで食品添加物とは縁もゆかりもなかった仲間社長ですが、食品添加物を事業に選んだ理由を問うと、「確たる根拠はなかったの。ただ漠然と…」と笑っていました。創業当初は、業界知識も商品知識も乏しく、とりわけ営業社員もいない中で、通関業務から販路開拓の一切を一人でこなさなければならず、経営は非常に厳しかったそうです。それでも持ち前の“前向き精神”を奮い立たせ、業界団体に加盟し同業他社との交流を通して勉強を重ね、取引商社を確保することができ、昨年からようやく軌道にのったとのことです。

日本に定住しておよそ十数年。在日中国人のネットワークを通じて日本雲南聯誼協会の存在を知ったのは数年前のこと。それまで四川省のNPO団体を通して貧困児童に1対1の支援活動を行い、仲間社長自らの目で中国東北部と西南部の貧困の差を見てきたとのことです。会社が安定したことで気持ちの上にも余裕が生まれたことを機に、「自分ができる範囲内で支援するのは当たり前のこと。（自分一人で）できることは多くはないが、子どもにチャンスを与えることが大切。チャンスがなければ、何も始まらない。会社はまだまだ大変だけど、協会を通して“可能性”ある雲南の子どもたちを応援したい」との思いから、今年3月に協会の法人会員（5口）として入会を決意したそうです。

仲間未来社長

インタビューの終盤、スマホから着信音が。お相手は愛娘の美帆さん。運転免許取得のために新潟県で合宿中だそうで、第1関門の法規試験にみごと合格とのこと。それを聞いた途端、仲間社長は破顔一笑でした。苦労談の多くは聞き漏らしましたが、「己所不欲、勿施于人」（自分がしてほしくないことは人にしてはいけない）が仲間社長の座右の銘だそうで、お人柄が充分に伝わってきました。

※CSR=Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

1か月500円からでできる教育支援 雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!

協会の活動趣旨に賛同し応援してくださる会員を随時、募集しています！

正会員	一口　6,000円（500円／月）
賛助会員	一口12,000円（1,000円／月）
法人会員	一口18,000円（1,500円／月）

※法人会員は3口以上でお願いします

※ 正会員と法人会員には総会における議決権がありますが、賛助会員には議決権がありません。
※ 4月1日から3月31日までを1年度とします。
※ 年度途中でご入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末（3月）まで月割で計算させていただきます。

会員には会員証を発行し、年4回（2月、5月、8月、11月）、会報誌『彩雲の南』をお送りいたします。

お申し込み
協会公式HP（http:/www.jyfa.org）→ 支援に参加する → 会員になる

お問い合わせ 東京本部事務局
（月～金、10～18時）
TEL 03(5206)5260
FAX 03(5206)5261
yunnan@jyfa.org

日雲の経済・教育・文化のかけ橋 未来へつながる交流

協会は設立以来、日本と雲南の経済・教育・文化の窓口として経済交流や教育・文化交流を積極的に行っています。今年3月末には雲南省薬品流通行業協会の阮鴻献団長一行20名が来日し、大正製薬株式会社、株式会社スズケン、一般社団法人日本医薬品卸売業連合協会などを視察しました。5月末にはアジア人材育成プロジェクトで協力していただいている雲南財経大学の肖涵予先生をはじめとする同大学の費宇 学校科研処処長ら6名が来日。協会会員で株式会社東京証券取引所上場推進部課長の勝尾修さんのご協力で同社を見学。協会を初訪問した一行と今後の日雲教育プログラムを話し合う交流会を開きました。

雲南省薬品流通行業協会一行 視察来日

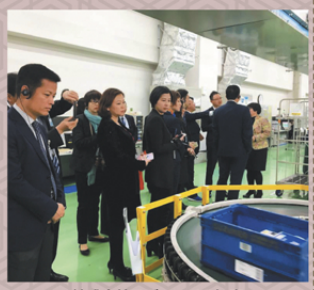
私たち雲南省薬品流通行業協会の一行は3月27日から5日間、協会の初鹿野恵蘭理事長と日本産業投資促進株式会社の林則幸専務の案内で、東京近郊の医薬品企業を視察しました。

最初に訪れたのは「大正製薬」で、元統括部長の吉岡さんや国際部の部長から歓迎していただきました。1928年創業の同社には90年近い歴史があり、世界第2位の一般用医薬品メーカーとあって、いろいろな刺激を受けました。

次に医薬品卸売りの「スズケン」の神奈川物流センターを訪れました。卸売り、小売、物流配送を手がける同社では、毎日4,000台のトラックが約1万カ所へ薬を配送しており、医療機関と調剤薬局がほぼ半数だそうです。顧客満足度が99.5-99.6%にも上ることに驚くとともに、日本企業の進んだ管理方法を垣間見ることができました。

今回の視察を通じて日本の薬品企業の動向やきめ細かい管理方法を知ることができました。それらを今後の企業の管理工程に取り入れ、発展の手本としていきたいと思います。

雲南省薬品流通行業協会会長　阮鴻献


▲株式会社スズケンでの視察

雲南財経大学一行来日

5月26日（金）株式会社東京証券取引所訪問

今回訪日した 6 名のうち、いつも協会活動に参加している私以外は、協会を知りませんでした。協会の雲南でのさまざまな活動を知った後、雲南財経大学で学生の育成について話し合いました。その中で、財経大学で全国でも有名な専攻科目「eコマース」が、学生育成に適しているという教授がいました。雲南の豊富な自然資源にeコマースのビジネスモデルを加えれば、国境を越えた育成プログラムになります。また、文化芸術分野での活動も希望しました。学生たちが、文化創造の盛んな日本に来ることができれば、世界でも最先端のアイデアに触れ、伝統的なスタイルを変えられます。雲南財経大学と日本との交流の中で、協会はきっと非常に重要な役割を果たすでしょう。

雲南財経大学　助教 肖涵予

協会にて座談会

東京証券取引所視察
会員 勝尾修

協会ボランティア通信

連載 第⑫回

イベントや会報誌発送、事務局のお手伝いなど、ボランティアの皆さんは協会活動にとってなくてはならない存在です。そして「25 の小さな夢基金」のサポーターから支援生徒へ、支援生徒からサポーターへのお手紙を翻訳する翻訳ボランティアもその一つです。

日中文化交流市民サークル ‘わんりぃ’ には 2015 年初めから翻訳ボランティアに協力していただいています。活動を通じて感じた心と心の交流の感想を寄せていただきました。

有意義なプロジェクトのささやかなお手伝い

日中文化交流市民サークル‘わんりぃ’（町田市）翻訳チーム代表 有為楠 君代さん

人間の時間の感覚とは随分妙なものですね。初めてお手伝いさせて頂いたのは2015年の1月でした。まだ2年半しか経っていないのに、もう3年も4年もお手伝いをしているような気がしていたので、本当にびっくりしました。そんな短い間の思いですが、ちょっとお話させてください。

新入生のお手紙には、選ばれたことへの感謝と喜び、将来への抱負が語られており、毎年楽しみにお手伝いさせていただいています。故郷での生活の苦しさが述べられたお手紙などを読むと胸のつぶれる思いですが、その生徒が感謝の言葉と共に、将来の抱負をしっかりと述べているのをみると、貴協会のプロジェクトがどんなに大切なものかひしひしと伝わってきます。

よく言われることですが、一般中国人の日本に対する印象はあまり良くありません。でも、日本に関わったことのある人々の間では、その好感度は100%に近いそうです。この生徒さん達も将来各方面でのリーダーになり、周囲の人々に日本の素晴らしさを知らせてくれることでしょう。いわゆる草の根の日中友好の広がりが期待できます。

そんな素敵なプロジェクトの一部で、ささやかなお手伝いが出来ることを本当に嬉しく思っています。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

イベント報告

大宮支部主催 第20回巡回写真展「笑顔を君に」

大宮支部主催の写真展が2年ぶりに6月22日～ 26日、JR浦和駅前の「さいたま市市民活動サポートセンターコムナーレ展示場」で開かれました。梅雨時期でしたが、皆さんの日頃の行いの良さからか雨は降らず、500名を超す来場者がありました。

支部の会員らは前日の夕方から会場準備に取りかかり、会員10名の写真60点と本部所蔵の写真20点のほか、少数民族衣装、協会関係資料、書籍などを展示しました。

写真展案内のはがきから企画・設計、写真キャプション作成、現場運営など全てボランティアの手作りでした。雲南の暮らし、自然、協会活動を紹介する写真の数々に、来場者の皆さんは大変満足そうでした。

大宮支部支部長　寺内明子

ボランティア協力（順不同、敬称略）：
鳥羽清弘、川口邦夫、大泉國雄、
髙橋福子、髙橋克巳、松本馨、松本裕子、丸田智代、服部恵美子、
横山晋、佐藤正典、山下道隆、山下英美、市川由美子、寺内明子

大宮支部懇親会

5月21日、大宮支部懇親会を支部長宅で開き、「25の小さな夢基金」新規サポーターを含め大人23名、子ども9名が参加。テーブルいっぱいの雲南家庭料理、上海料理、手作り餃子、タイのマンゴー等を囲みながら5月の国際友好フェア2017の反省点や6月の写真展のことなどについて食事しながら意見交換をしました。イベント時は忙しく、ボランティアの皆さんが交流する時間がなかなか取れませんが、この日は皆さん、リラックスして楽しんでいました。

大宮支部支部長　寺内明子

第15回 アセアン華商会 出席

第15回アセアン華商会が6月10日から3日間昆明市で開かれ、教育だけでなく経済交流を通じても日雲の関係を強めようと、雲南省僑務弁公室の招きに応じて初鹿野恵蘭理事長、協会スタッフら4名が出席しました。

世界に広がる中華企業の交流の場である同会議は、毎年多くの企業が参加する対東南アジアの重要イベントとしても知られています。今年も日本を含むアジア各国とアメリカ、ニュージーランド、イスラエルなど42ケ国から約600名が参加しました。

会期中は、越境ECや大学生創業などについてプレゼンテーションも行われました。初鹿野理事長は、協会を長年応援してくださっている雲南省僑務弁公室と雲南省招商合作局の関係者と面会。会場では協会のボランティア活動に参加したことのある大学生の範宜東さんと龔艶玲さんが日本語の通訳ボランティアをしていました。

平成29年度 第1回理事会及び役員・顧問会 開催報告

本年度初めての理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日　時：　平成29年5月12日㈮
理事会15:30～17:00
役員・顧問会17:00～18:00
場　所：　株式会社技術評論社3階 会議室
司会進行：滝澤 崇 理事
参加人数：15名（事務局含む）
【議案】平成28年度会計報告について、平成29年度収支予算、イベント・プロジェクトについて、協会設立20周年記念事業について
今回も重要な議案が審議され　全て原案通り承認されました。

6月3日㈯ 第17回 定時総会及び懇親会 開催報告

第17回定時総会が下記の通り行われました。

日　　時：平成29年6月3日㈯
10:00～12:00
場　　所：株式会社技術評論社5階 会議室
司会進行：滝澤 崇 理事
議決権を有する会員数　308名
出席会員数　159名（うち委任状出席137名）

下記の議案について審議し、原案通り承認されました。

【議案】
第1号議案　特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会の定款変更について
第2号議案　平成28年度事業経過報告について
第3号議案　平成28年度会計収支決算報告・会計監査報告について
第4号議案　平成29年度事業計画案審議について
第5号議案　平成29年度会計収支予算案審議について

初鹿野恵蘭理事長が冒頭、昨年度の活動報告を行い、会員、ボランティアのみなさんへの感謝と今年度の活動の抱負を述べました。今回は、毎年2月のワン・ワールド・フェスティバルで協力していただいている大阪在住の平松宏子さんや学生会員も出席しました。総会後の懇親会では、普段なかなか会えない会員の皆さんが協会活動についての思いを語りあい、親睦を深めました。

JR総連結成30周年記念レセプション

榎本一夫JR総連執行委員長（左）と初鹿野恵蘭理事長（右）

法人会員である全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）の結成30周年記念レセプションが6月6日、ホテルイースト21東京（東京都江東区）で開かれました。国内外の鉄道関係者、政財界などから412名が招待され、協会からは初鹿野恵蘭理事長と林則幸理事が出席しました。JR総連には2003年以来、協会を力強くサポートしていただいています。榎本一夫委員長に、結成30周年のお祝いとご支援に対する感謝を伝えました。

イベント情報

第21回 全国巡回写真展「笑顔を君に」in 半蔵門

会期：9月8日㈮～22日㈮
時間：10：00～17：00
場所：一般財団法人自治体国際化協会
市民国際プラザ
（東京都千代田区麹町1-7 相互半蔵門ビル1階）
主催：認定NPO法人　日本雲南聯誼協会東京本部　※入場無料

グローバルフェスタJapan2017

期間：9月30日㈯、10月1日㈰
場所：お台場センタープロムナード
（東京都江東区青梅）
東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」駅から徒歩1分
ゆりかもめ東京臨海新交通臨海線「青海」駅から徒歩3分
ゆりかもめ東京臨海新交通臨海線「お台場海浜公園駅から徒歩7分
※協会ブースは決まり次第、FB・メール通信などでお知らせします
ボランティア大募集中！
協会ブースで民族衣装を着て協会活動を紹介しブーアール茶の試飲など
興味のある方はまずはお気軽に協会事務局までお問合せください！

第13回 雲南省教育支援チャリティーゴルフコンペ

日時：10月21日㈯
場所：大月カントリークラブ（山梨県大月市）

平成29年度 第3回理事会及び役員・顧問会

日時：2017年11月17日㈮
理事会15：30～、役員・顧問会17：00～
場所：株式会社技術評論社内　会議室
（東京都新宿区）

第38回八王子いちょうまつり

期間：11月18日㈯、11月19日㈰
協会出展場所：並木町郵便局横（東京都八王子市）

第17回 チャリティー忘年会

日時：12月16日㈯　17：00～19：00
場所：ビヤステーション恵比寿
（東京都渋谷区恵比寿ガーデンプレイス内）

お知らせ

第21回 全国巡回写真展「笑顔を君に」in 半蔵門

会期　2017年9月8日㈮～22日㈮
10：00 ～ 17：00
会場　一般財団法人自治体国際化協会
市民国際プラザ
（東京都千代田区麹町1-7 相互半蔵門ビル1階）
主催　認定NPO法人
日本雲南聯誼協会
※入場無料

展示内容
- 協会理事長初鹿野恵蘭が現地で撮影した少数民族の人々の暮らし
- 雲南省支援小学校の子どもたちが使いきりカメラで撮影した日常の風景
- 協会の様々な教育支援活動をご紹介する写真やパネルなど

［お問い合わせ］
日本雲南聯誼協会東京本部事務局
TEL.03-5206-5260（平日10～18時）
✉ yunnan@jyfa.org

編集後記

機会があって、九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市でボランティアに参加しました。土砂で埋まった川は流れが変わってしまい、豪雨から一か月たっても避難所暮らしを強いられている方たちがいました。雲南省の隣の四川省九寨溝も先日、大地震に見舞われました。インフラの整備されていない雲南省の山間地では、協会の支援で建つ小学校が避難所や救援拠点になります。そういう意味でも協会の進める小学校建設事業は大切だと思いました。

（編集長・木本一彰）

お知らせ

2017チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ

一年の活動を振り返り、親睦を深める協会のチャリティー忘年会。毎年、会員、サポーター、ボランティアなど100名以上に参加していただいています。

今年も参加者全員で少数民族の踊りを踊ったり、お楽しみ抽選会で素敵な景品をゲットしたりと盛りだくさんの内容で開催します。

ご家族、お友達をお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください
皆さんのご参加を心よりお待ちしています！

日時：2017年12月16日㈯
17：00～19：00
場所：ビヤステーション恵比寿
東京都渋谷区恵比寿
恵比寿ガーデンプレイス内
（JR恵比寿駅東口徒歩5分）
会費：7,000円（予定）

会費のうち1,000円を雲南少数民族教育支援活動へのご寄付とさせていただきます。

ゴルフで社会貢献

雲南省少数民族貧困児童教育支援 第13回チャリティーゴルフコンペ

日時　2017年10月21日㈯
場所　大月カントリークラブ（山梨県大月市）
主催　認定NPO法人 日本雲南聯誼協会

参加者大募集

［お問い合わせ］日本雲南聯誼協会東京本部事務局 TEL.03-5206-5260（平日10～18時）✉ yunnan@jyfa.org